

『好きを続ける』



ひたちキラ人

むらた なつか
村田 夏佳さん

絵本作家・イラストレーター。1990年生まれ。日立市出身。塙山小学校、大久保中学校卒。東京工芸大学にて谷広樹氏に師事。愛犬の柴犬を題材に、イラスト制作を始める。書籍やカレンダー、ステーションナリー雑貨のイラストを中心に活動している。柴犬と食べ物を組み合わせた「しばいぬとおやつ」シリーズを描き続けている。2023年に「おいしいおいしいかくれんぼ」(アリス館)を出版。



取材日：2023.12.25

「うちにきてくれて、ありがとう。」

村田さんの思い入れがある作品。犬に対する素直な想いが表現できたそう。自身で愛犬を介護したからこそ視点。2枚の絵だけで、物語を感じさせる。



「最後まで一緒にいるよ」



一子どもの頃は、どんな絵が好きでしたか。

絵は、一番いわさきちひろさんの絵に憧れていました。小学生の頃、いわさきちひろ展を見て改めて好きになって。絵本自体は林明子さん、いわむらかずおさんを読んできました。

一しばいぬとの関係は昔からですか。

小学校までは活発な子でしたが、中学校で心閉ざし、人としゃべらなくなり、自分の気持ちも伝えられなくなって引き籠もりになりました。寂しい時に先代犬のしばいぬがいてくれて、犬の前では自分の気持ちを出せました。

一高校時代、ニュージーランドに短期留学した行動力はどこからくるのですか。

当時、皆に好かれなくちゃいけない、皆と同じじゃなきゃいけないなど色んなことを考え過ぎて中学で不登校になり、高校も中退してしまいました。失敗だけでしたが、「もう1回だけ、がんばろう」という気持ちで、地球の反対に行きました。元々の性格は人と話すのが好きで、英語の勉強も好きだったので、思い切って外国だったら何とかなると謎の自信からです。

一外国での高校生活はどうでしたか。

島の学校で、裸足で歩いている、ポケットからリンゴ出して食べてる、髪も肌の色も皆違うし「違うのがあたりまえなんだ。」という感じ、自分が描いた細かいデッサンを現地の生徒に驚嘆される経験があったりして「どこにいても絵だったら頑張っていけるかも」とそこですごく感じました。

一スランプの時は、どうしていますか。

大学の頃、考え過ぎてうまくいかない時、恩師から「描くことだけは続けろ」と言われていたおかげで、今も何とかなっています。3年前にスランプだった時も仕事はとめなかった。手を動かしてたら何とかなって。

一この先、どんな絵本を描きたいですか。

絵本を大人になってからも読みます。ストーリーも読むけど、描き込まれた絵も好きで、ストーリーに入り込めるような、落ち着けるような、救われるようなものが描けたらと構成を書き溜めようと思っています。

一自伝的なものを書く予定はありますか。

先代犬のしばいぬを介護し、最後まで看取った時「いてくれるだけでよかったんだ」と思った時に想像もしない喪失感を味わいました。犬を飼うのは嬉しい楽しいだけじゃなく、お金もかかるし介護するかもしれない、ってところまで描きたい。でも犬との生活はすばらしい、といった本がいくつか描けたらいいと思います。

一しばいぬLOVEはこれからも続きますか。

旅行もカメラも好きで、旅先でしばいぬを見つけると写真撮っちゃう(笑)今、しばいぬのイラストが描けるのは赤ちゃんの頃から触って育てたから骨格の構造が理解できていて自然なポーズが描けています。カラダは小さいけど存在は大きい。やっぱり犬との生活は楽しいし、ありがたい存在です。

小中学生の皆さんへ

私は、元々友達も学校も大好きでしたが、心の病気にかかり、小学校では保健室登校、また中学校では2年間の不登校を経験しました。みんなと同じようにできない自分は、なんてだめな人間なんだろう。といつも考えていました。

でも、少し外に目を向けてみると、世界はとっても広くひろがっています。何でもいから、好きなことを見つけてみてください。続けてみてください。行けるチャンスがあったのなら、見に行ってみてください。好きなものから広がる、学校の世界とは比べものにならないくらい好きなものから広がる、友達や仲間との輪は、学校の世界とは比べものにならないくらい大きく広がっています。

うまくいかなくて、どうしようもなくても、「絵が好きだ」という気持ちと、「絵を描く」ということを続けてきた私は、23歳で、イラストレーターとして活動を始めて、33歳になって、自分の夢だった絵本作家になることができました。スポーツでも、マンガでも、ドラマでも、ゲームでも、音楽でも、勉強でも、好きなものがあるあなたは大丈夫です。今苦しくても、好きなことをやめないで、続けてみてください。好きなものを作っている人たちに注目してみると、目標もできるかもしれません。今好きなものがない人は、是非いろんなことを体験したり、観たりして、探してみてください。「好き」が自分を助けてくれます。

